

むすんで ひらいて

第59号

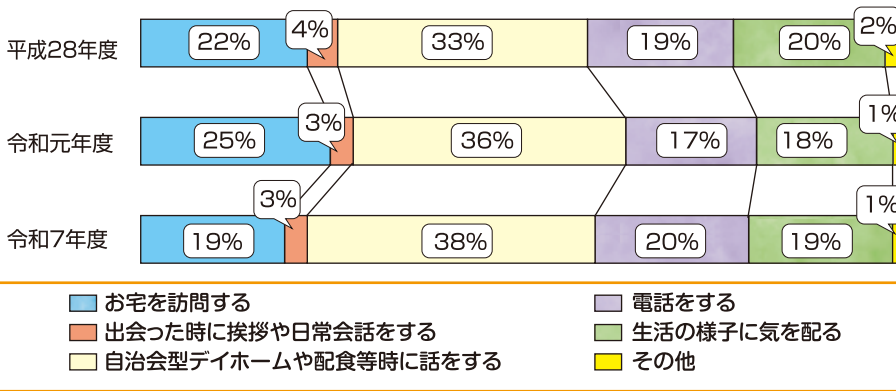
発行日
令和8年3月

発行：福井市地区社協連絡協議会
〒910-0018 福井市田原1丁目13-6 フェニックス・プラザ1階
(社会福祉法人 福井市社会福祉協議会内)
TEL 0776-26-1853 FAX 0776-26-9109

◆福井市社協のホームページからバック
ナンバーをご覧ください

問 あなたが行っている見守り活動の方法について お答えください。(複数回答)

これまでの調査と比較すると、「お宅を訪問する」の割合が低くなり、「出会った時に挨拶や日常会話をする」「生活の様子に気を配る」の割合が高くなりました。



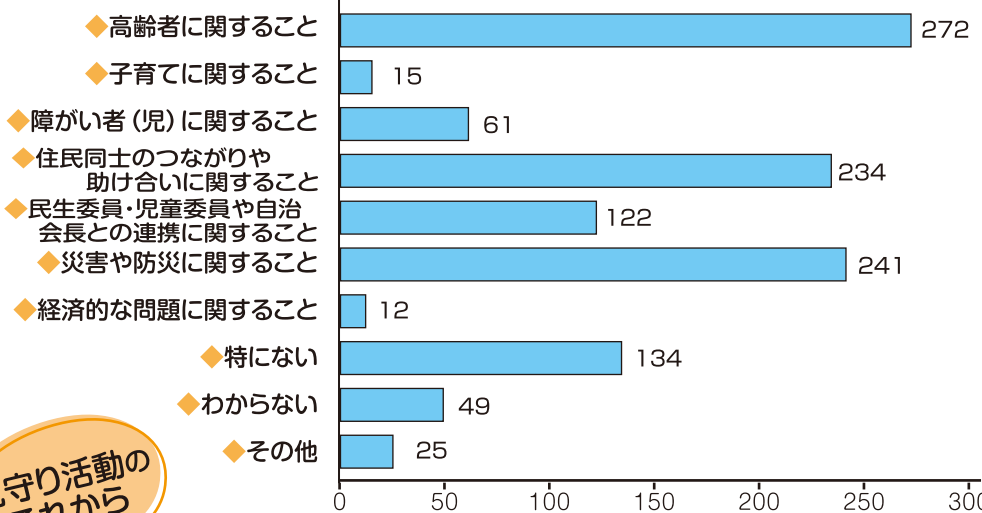
福祉委員活動見守りアンケートから見る

見守り活動の現在とこれから

福井市社協では、市内の福祉委員1583人を対象に、令和7年6月から9月にかけて見守り活動についての調査を行いました。
調査を通じて見えてきた福祉委員活動について、一部をご紹介します。(回答者数700人/回答率44.2%)

問 福祉委員をやっていて、課題と感じていること・感じたことは何ですか。(複数回答)

今回、新たに設置した設問です。最も多い回答は「高齢者に関すること」で、次いで「災害や防災に関すること」「住民同士のつながりや助け合いに関すること」となりました。



見守り活動の
これから

今回の調査からは、出会った時のあいさつなど、自分にできる範囲でさりげない見守りをしてくださる方が増えていることがうかがえました。また、福祉委員をしていて良かったこととして、「研修に参加し、福祉委員としてだけでなくこれからの自分の暮らしについて考える機会になった」という意見も少なくないことから、見守りの方法やポイント、福祉委員の関心ごとや上記の課題に応じた内容など研修の充実が求められていることが分かりました。地区社協連協では、引き続き地区社協とともに、見守り活動と福祉委員活動の意義を伝え、誰もが安心して暮らせる地域づくりにつなげていきます。

あったかメッセージ

見守り活動に関する が届きました

「あったかメッセージ」とは、福井市内で見守り活動やその誘い水となる活動をされている方々（福祉委員や民生委員・児童委員など）への応援メッセージです。

応援メッセージを届けてくれたのは、普段見守られている方（主に高齢者）。地域の中での心地よさ、ほっこりしたエピソードや、見守り活動への励ましなど、人と人とのつながりを元気づける数々のメッセージの一部をご紹介します。

見守り活動



- ♡「ピンポンの音で玄関に。「エアコンが回ってなくて心配したあ」と…。笑顔でおしゃべり、嬉しいですね。一言の声かけ、元気をもらいます！」（春山地区・80代）
- ♡「福祉委員さんに見守り、お声かけをいただいています。食事サービスやデイホームも利用させていただいています。役員さんに感謝しています。」（鷹巣地区・80代）

食事サービス

- ♡「いつも感謝の一言に尽きます。暑さ寒さをいとわず、お弁当と、優しい小学4年生の皆さんからのお手紙をお届けくださる民生委員さんありがとうございます。」（啓蒙地区・80代）
- ♡「月1回の弁当を楽しみに待っております。ありがとうございます。大変だと思いますが長く続けて頂けるように願っております。」（松本地区・80代）



自治会型デイホーム



- ♡「デイホームが楽しくて、前の日からどの洋服を着ようかとプチおしゃれを考えます。お友達に会えて笑顔が出ます。民生委員さん・役員さんに感謝です。」（湊地区・80代）
- ♡「初めてデイホームのお誘いを受けて参加するようになり、とても楽しい時間を過ごしています。次のデイホームがとても待ち遠しいです。」（越廼地区・80代）

みなさまからのあったかメッセージ、
随時募集しています！

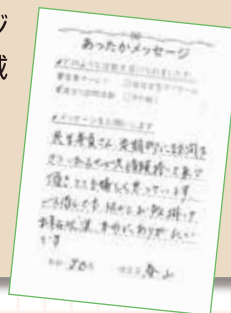


メッセージの
応募は
こちらから



見守り活動者への励みとなるようなメッセージを募集しています。いただいたメッセージは地域の風土づくりを盛り上げるために役立てていきます！

メッセージは福井市社協ホームページ等にて随時紹介させていただきます。



福井市地域福祉活動計画に基づいて、新しい取り組みにチャレンジ!

福井市地域福祉活動計画は、「力を合わせて地域福祉で安心して暮らせるまちづくり」を基本理念に掲げ、見守りや支え合い、つながりを強化する民間の行動計画です。

ここでは地区社協が福井市地域福祉活動計画に基づいて取り組んでいる、先駆的な取り組みをご紹介します。



けることで、普段関わりが
少ない世代との出会いや交
流の機会となりました。
木田地区社協の平会長
は、「福祉まつりを通して若
い方に福祉を身近に感じて
もらい、自分たちにもでき
る活動があることを知って
もらえてよかった」と話さ
れており、来年度の福祉ま
つりでは、さらに参加・体
験型のコーナーを広げ、木
田地区住民の地域福祉への
理解を深めていくとのこと
です。

木田地区社協では、令和7年10月26日に、地区の介護事
業所等で構成される、「チームオレンジ木田」の協力のも
と、地域福祉の理解者・協力者を広げる機会として、福祉
まつり&健康フェス(公民館まつり共催)を開催しました。
今年度は、楽しく地域福祉を学び、より福祉を身近に
感じてもらうために、足指筋力測定などの健康・体力測定
や点字・手話などのミニ教室などの参加・体験型コーナ
ーを設け、住民に広く参加を呼びかけました。
他にも、地区の食生活改善推進員による健康レシピの試
食コーナーや地区の助産師による育児相談、明倫中学校の
生徒有志によるシールラリーなど16の様々なコーナーを設

取り組み 9

「世代を超えた出会い、
ふれあい、学び合い
の機会をつくる」

木田地区社協

福祉まつり&
健康フェス

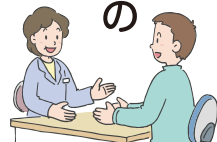


取り組み 18

「福祉サービス事業所
と住民が地域福祉で
できる事を考える」

川西ブロック地区社協

地域の福祉
サービス事業所との
情報交換



川西ブロック地区社協では、令和7年9月19日に、福井
川西包括支援センターの協力のもと、ブロック内の福祉事
業所との情報交換を行い、7地区社協18名、13福祉事業
所18名の参加がありました。テーマは、互いに地域のため
にできることを考え、今後どのような地域にしていきたい
かについて情報交換を行いました。

各グループの発表者からは、「地域と関係機関が連携
し、情報共有をすることで、地区住民に福祉の情報を発
信していくことが大切なのではないか」という意見や「地
域福祉に目を向けている人が少ないので、福祉を理解して
もらえるような地域づくりをしていきたい」など、力強い
思いが語られました。

最後に、これからも地区社協と福祉事業所との情報交
換を継続し、地域の皆さんへの福祉の情報を発信し続ける
ことで、福祉への理解者・協力者を広げていきたいと締め
くくり、情報交換を終えました。

川西ブロック地区社協の松
並会長(本郷)は、「7地区
それぞれが地域福祉につ
いて改めて考えるよい機会と
なった」と話されていました。

◎川西ブロック地区社協とは?

地域福祉の活性化を目的と
した組織で、大安寺・国見・鶉・
栗・鷹巣・本郷・宮ノ下の7
地区で構成されています。



社北地区

「世代を超えてつながりあう地域を目指して」

社北地区は、福井市の中心部から南西に位置し、豊かな自然と歴史、都市機能が調和した地域です。古くからの住宅地と新興住宅地が共存しており、多世代が支え合いながら暮らす温かな地域性が特徴です。

今回は、世代を超えたつながりを目指して企画した活動について2つ紹介します。

1つ目は、自治会型「デイホーム」「うきうきサロン」で地域のこども園の園児と触れ合っていることです。社北地区社協は月6回の「うきうきサロン」を開催しています。昨年は、21名のサロンの参加者と45名の園児が卓球バレーを通して交流を深めました。

2つ目は、社西地区社協との共催で高齢者と中学生のスポーツ交流会を開催していることです。今年度は、中学生と社協で実行委員会を作り、3回の実行委員会を経て当日を迎えました。ポッチャなどのニュースポー



園児との卓球バレー交流の様子



中学生とのスポーツ交流会の様子

社北地区社会福祉協議会
会長 吉田 晴美

ツ3種目と中学生考案のオリジナルスポーツ1種目を中学生と高齢者の混合チームで戦いました。当日は、司会、チームリーダー等を中学生が担当し、高齢者の選手宣誓が始まりました。試合中はお互いを応援する姿が数多く見られ、笑顔が溢れていました。中学生の参画で、顔の見える関係作りがより進んだと感じました。

これからも「世代を超えてつながり、支え合う、安心な地域」を目指し活動を続けてまいります。

社西地区

「ふれあい活動の実践で目指す福祉のまちづくり」

私たちの社西地区は、昭和43年の福井国体招致に、各種競技施設を備えた運動公園ができ、国体終了後にその西側に広がっていった住宅街です。高齢化率は34%と平均より高い割合を示していますが、元気なお年寄りが多い地域でもあります。

そのような中、私たち社協は、出会の場づくりを大切に事業を行っています。敬老会は、毎年75歳以上の約240名の参加を得て開催し、皆と会える喜びも一緒に楽しんでいただいています。開催にあたっては、100名の実行委員と約60名の小学生の皆さんに参加・協力をいただいていることから、世代間交流や日頃出会えない方との交流の場ともなっております。

また、毎年地区内の65歳以上の方を対象に、日帰りバス旅行を行っています。大型バス2台分が案内から二日で満席になるほど皆さんから喜ばれ期待されています。

一人暮らし高齢者への弁当作りは、



「男の料理教室」の様子

社西地区社会福祉協議会
会長 今富 廣子

メニュー作成から調理まで福祉委員や婦人会など他団体の協力を得ながら手作りにこだわってお届けしています。

こどもたちとのつながりについての取り組みも2つ紹介します。1つ目は地域包括支援センターと二緒に、「認知症サポーター」養成の寸劇を披露し、認知症に対する理解を図りました。2つ目は、こどもたちと「昔遊び」を一緒に行い楽しく交流することができました。他にも変化する家族構成を意識した「男の料理教室」や「ふれあい福祉まつり」等も行っていきます。